



2015年2月6日

各 位

株 式 会 社 I H I
 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
 代表取締役社長 齋藤 保
 (コード番号 7013)
 問合せ先 常務執行役員 望月 幹夫
 財 務 部 長
 T E L 0 3 - 6 2 0 4 - 7 0 6 5

【訂正】「2014年度(平成27年3月期)第3四半期決算説明資料」の一部訂正について

2015年2月3日に発表いたしました「2014年度(平成27年3月期)第3四半期決算説明資料」について、誤記がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所は下線にて表示しております。

記

【訂正箇所】

「2014年度(平成27年3月期)第3四半期決算説明資料」 27ページ
 <参考資料①> 車両過給機<地域別連結売上高推移>

【訂正前】

(億円)

	実績										見通し	
	'10	'11	'12	'13年度				'14年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
日 本	302	331	339	85	169	259	353	90	184	275	377	
ア ジ ア	170	169	248	80	163	<u>173</u>	298	72	137	<u>175</u>	274	
中 国	42	143	181	56	115	<u>232</u>	234	63	128	<u>207</u>	241	
北 米	14	11	13	4	8	12	16	4	9	13	23	
欧 州	348	437	432	135	283	434	602	176	372	558	764	
そ の 他	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
合 計	879	1,094	1,216	362	739	1,113	1,507	407	832	1,233	1,680	

【訂正後】

(億円)

	実績										見通し	
	'10	'11	'12	'13年度				'14年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
日 本	302	331	339	85	169	259	353	90	184	275	377	
ア ジ ア	170	169	248	80	163	<u>232</u>	298	72	137	<u>207</u>	274	
中 国	42	143	181	56	115	<u>173</u>	234	63	128	<u>175</u>	241	
北 米	14	11	13	4	8	12	16	4	9	13	23	
欧 州	348	437	432	135	283	434	602	176	372	558	764	
そ の 他	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
合 計	879	1,094	1,216	362	739	1,113	1,507	407	832	1,233	1,680	

以上

なお、訂正後の「2014年度(平成27年3月期)第3四半期決算説明資料」は次のとおりです。

2014年度(平成27年3月期) 第3四半期決算説明資料

2015年2月3日

株式会社 IHI



1. 2014年度第3四半期 連結決算	
連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	8
連結貸借対照表.....	9
補足資料.....	10
2. 2014年度 連結業績見通し	
通期業績見通し.....	13
報告セグメント別内訳.....	14
3. 報告セグメント別の概況	
資源・エネルギー・環境.....	17
社会基盤・海洋.....	19
産業システム・汎用機械.....	21
航空・宇宙・防衛.....	23
<参考資料>	25

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2014年度第3四半期 連結決算

1. 2014年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2014年度3Q 売上平均レート(米ドル) 108.16円

(億円)

	'13年度3Q	'14年度3Q	増 減
受 注 高	9,121	11,434	2,313
売 上 高	8,715	9,740	1,025
営 業 利 益	341	456	115
経 常 利 益	452	458	5
税金等調整前 四半期純利益	527	458	▲ 69
四半期純利益	313	268	▲ 44

1. 2014年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受 注 高			受 注 残 高		
	'13年度3Q	'14年度3Q	増 減	'13年度末	'14年度3Q末	増 減
資源・エネルギー・環境	3,025	4,372	1,347	5,352	7,377	2,025
社会基盤・海洋	1,202	1,337	134	2,352	2,503	151
産業システム・汎用機械	2,700	2,936	236	1,087	1,184	96
航空・宇宙・防衛	2,132	2,600	468	4,403	4,504	101
報告セグメント計	9,061	11,247	2,185	13,195	15,570	2,374
その他	424	582	157	193	369	176
調整額	▲ 365	▲ 395	▲ 29	-	-	-
合計	9,121	11,434	2,313	13,388	15,939	2,550
海外受注高・受注残高	4,403	5,995	1,591	6,281	7,682	1,400
海外受注高・受注残高比率	48%	52%	4%	47%	48%	1%

1. 2014年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'13年度3Q	'14年度3Q	増減	'13年度3Q	'14年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,254	2,688	434	78	118	40
社会基盤・海洋	951	1,252	300	▲ 6	▲ 7	0
産業システム・汎用機械	2,762	2,908	145	108	69	▲ 38
航空・宇宙・防衛	2,708	2,864	155	270	309	38
報告セグメント計	8,677	9,713	1,036	450	490	39
その他	364	373	8	▲ 2	0	3
調整額	▲ 326	▲ 346	▲ 19	▲ 107	▲ 34	72
合計	8,715	9,740	1,025	341	456	115

1. 2014年度第3四半期 連結決算

報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	63	▲ 30	33	▲ 26	40
社会基盤・海洋	25	▲ 42	19	▲ 2	0
産業システム・汎用機械	3	▲ 13	4	▲ 32	▲ 38
航空・宇宙・防衛	5	20	41	▲ 28	38
報告セグメント計	96	▲ 65	97	▲ 88	39
その他	11	8		▲ 16	3
調整額		18		54	72
合計	107	▲ 39	97	▲ 50	115

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2014年度第3四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'13年度3Q	'14年度3Q	増 減
金融収支	▲ 11	▲ 11	0
持分法による投資損益	93	▲ 6	▲ 100
為替差損益	65	90	24
その他	▲ 35	▲ 69	▲ 34
営業外損益	111	1	▲ 109
特別損益	74	—	▲ 74

1. 2014年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'13年度末	'14年度3Q末	増 減
資産合計	14,963	16,707	1,743
(うち 売上債権)	(3,950)	(3,984)	(33)
(うち 棚卸資産)	(3,558)	(4,532)	(973)
負債合計	11,338	13,025	1,687
(うち 仕入債務)	(2,809)	(2,822)	(13)
(うち 前受金)	(1,032)	(1,379)	(346)
(うち 有利子負債残高)	(3,578)	(4,494)	(916)
純資産合計	3,625	3,681	56
株主資本	3,322	3,312	▲ 10
その他の包括利益累計額	129	213	83
負債・純資産合計	14,963	16,707	1,743
D/Eレシオ (※)	0.99倍	1.22倍	0.23倍

有利子負債残高には、リース債務残高('13年度末:183億円, '14年度3Q末:167億円)を含んでいます。

'14年度3Q末の株主資本には、退職給付会計基準の改正に伴う影響として、利益剰余金146億円の減少を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

1. 2014年度第3四半期 連結決算 補足資料

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'13年度3Q	'14年度3Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	32	12	▲ 19
投資キャッシュ・フロー	▲ 525	▲ 554	▲ 29
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 493	▲ 542	▲ 48
財務キャッシュ・フロー	523	750	226

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'13年度3Q	'14年度3Q
研究開発費	219	229
設備投資額	330	395
減価償却費	291	308

1. 2014年度第3四半期 連結決算 補足資料

(3) 海外売上高

(億円)

	'13年度3Q	'14年度3Q
ア ジ ア	1,167	1,283
中 国	438	534
北 米	1,508	1,961
中 南 米	135	247
欧 州	1,119	1,268
そ の 他	84	100
合 計	4,453	5,395
海外売上高比率	51.1%	55.4%

2. 2014年度 連結業績見通し

2. 2014年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート
(第4四半期以降)

米ドル 115円
ユーロ 135円

(億円)

	前回見通し ('14年度通期) A	今回見通し ('14年度通期) B	前期実績 ('13年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	15,500	16,000	14,589	500
売 上 高	14,400	14,600	13,040	200
営 業 利 益	650	700	532	50
経 常 利 益	570	620	532	50
当 期 純 利 益	350	350	331	0

前回見通しは、2014年11月5日公表の業績予想数値です。

当期純利益には、今後想定される税制の変更による影響を織り込んでいます。

(参考) 為替感応度 (為替相場1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 4億円 ユーロ 0億円

2. 2014年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('14年度通期)	今回見通し ('14年度通期)	増 減
資源・エネルギー・ 環境	5,400	5,600	200
社会基盤・海洋	1,800	1,800	0
産業システム・ 汎用機械	4,000	4,100	100
航空・宇宙・防衛	4,100	4,300	200
報告セグメント計	15,300	15,800	500
そ の 他	800	800	0
調 整 額	▲ 600	▲ 600	0
合 計	15,500	16,000	500

前回見通しは、2014年11月5日公表の業績予想数値です。

2. 2014年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('14年度通期)		今回見通し ('14年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・ 環境	4,200	210	4,200	230	0	20
社会基盤・海洋	2,000	80	2,000	20	0	▲ 60
産業システム・ 汎用機械	4,000	100	4,100	110	100	10
航空・宇宙・防衛	4,100	310	4,200	390	100	80
報告セグメント計	14,300	700	14,500	750	200	50
そ の 他	600	10	600	10	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 60	▲ 500	▲ 60	0	0
合 計	14,400	650	14,600	700	200	50

前回見通しは、2014年11月5日公表の業績予想数値です。

3. 報告セグメント別の概況

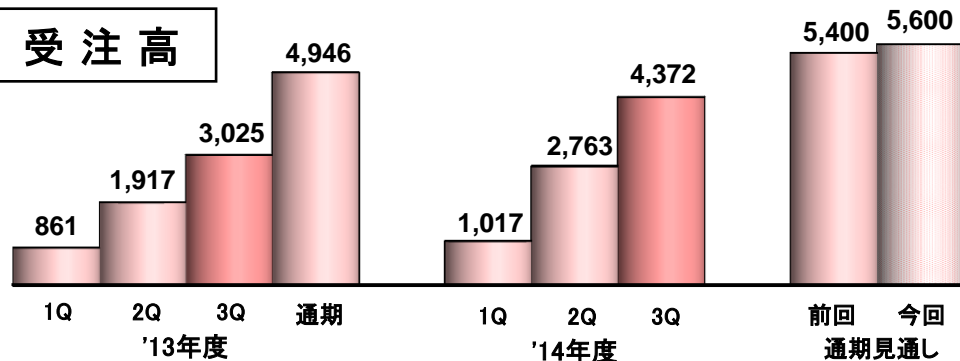
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2014年11月5日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, ガスプロセス, 原子力, 環境対応システム, 医薬

受注高

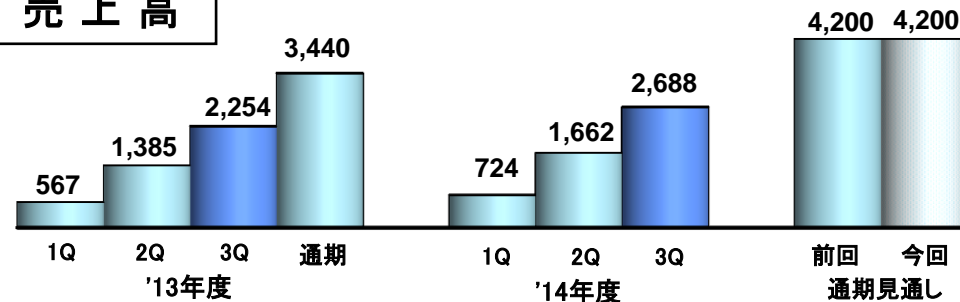


<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

ボイラ, 原動機プラント, 環境対応システム, 米国のコーブポイント天然ガス液化設備を受注したガスプロセスの増加により, 前年同期比**44.5%増**の**4,372**億円となりました。

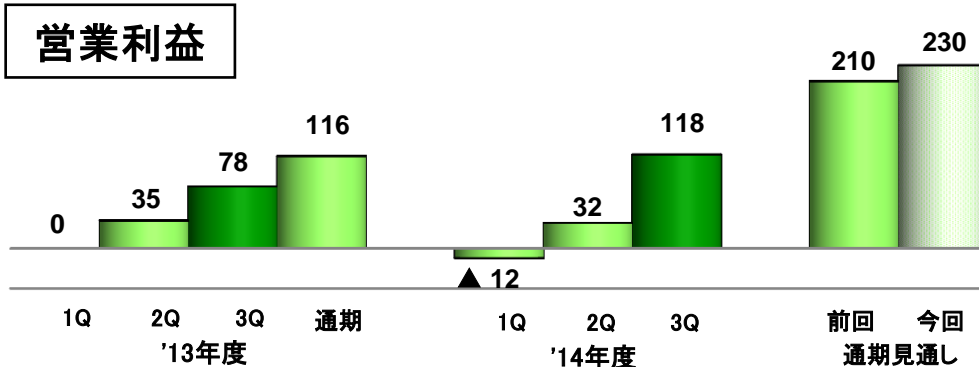
売上高



【売上高】

ガスプロセス, ボイラの増収により, 前年同期比**19.3%増**の**2,688**億円となりました。

営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

為替円安の影響等により, 受注高は**200**億円の増加, 営業利益は**20**億円の増益としました。

売上高は為替円安の影響はあるものの, ボイラにおける一部工事の売上計上時期遅れの影響等により, 変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高							
	'13年度 通期	'14年度 通期 (見通し)	'13年度			通期	'14年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
ボ イ ラ	1,193	1,700	131	320	530	713	203	420	643	890
原 動 機 プ ラ ン ト	176	400	51	128	242	376	39	87	169	300
陸 船 用 原 動 機	722	820	140	325	506	729	153	342	507	750
ガ ス プ ロ セ ス	1,485	1,370	55	149	231	386	120	312	629	990
原 子 力	304	330	45	131	191	323	29	104	162	330

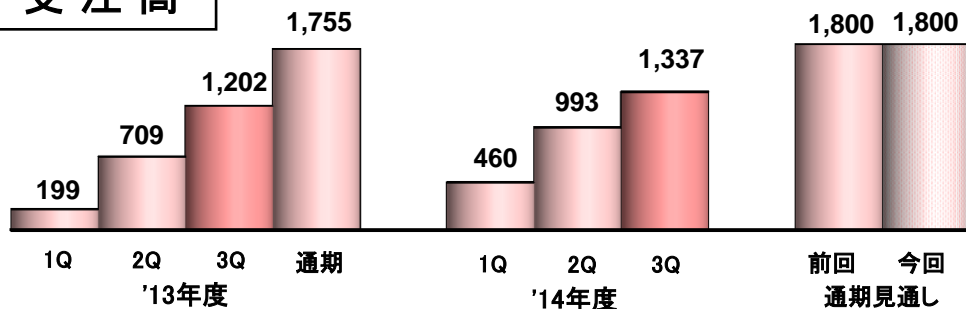
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2014年11月5日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG, 海洋構造物

受注高



<対前年同期 増減内訳>

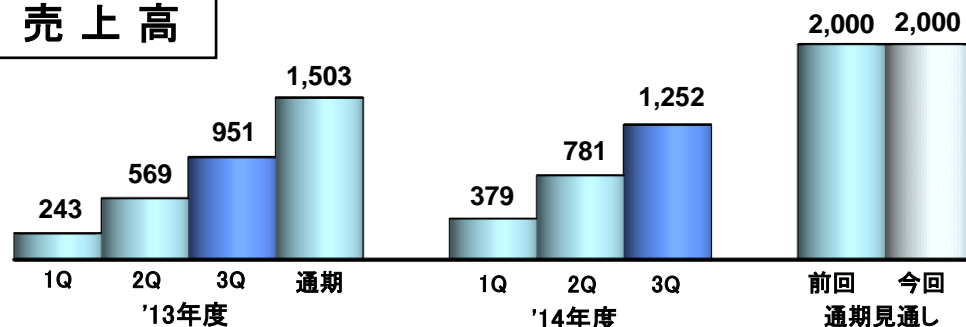
【受注高】

橋梁は減少したものの、水門、シールド掘進機、交通システムの増加により、前年同期比11.2%増の1,337億円となりました。

【売上高】

橋梁、F-LNG・海洋構造物、都市開発の増収により、前年同期比31.6%増の1,252億円となりました。

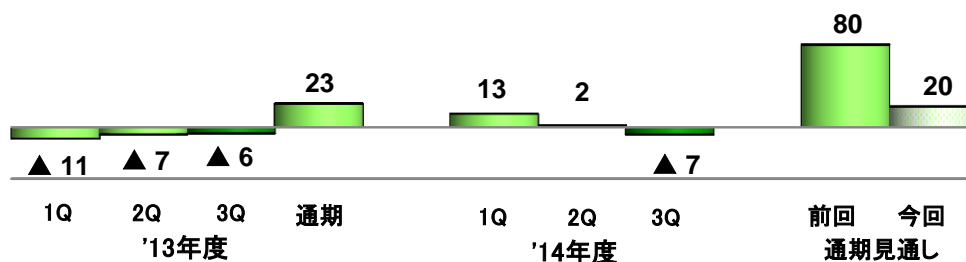
売上高



【営業利益】

為替円安の影響、海外橋梁がおおむね順調に推移していること及び都市開発の増収という増益要因はあったものの、F-LNG・海洋構造物の採算悪化により、前年同期比ほぼ横ばいの7億円の赤字となりました。

営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

営業利益はF-LNG・海洋構造物における採算悪化等により、▲60億円の減益としました。

受注高は変更ありません。

売上高は為替円安の影響はあるものの、F-LNG・海洋構造物における一部工事の売上計上時期遅れの影響等により、変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高							
	'13年度 通期	'14年度 通期 (見通し)	'13年度			通期	'14年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
橋 梁	482	470	138	336	537	815	210	421	670	1,060
F-LNG・ 海洋構造物	466	360	5	8	20	38	8	77	117	220

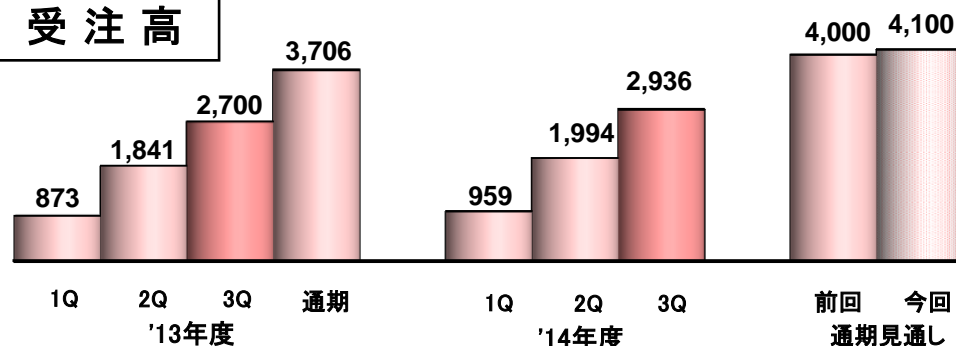
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

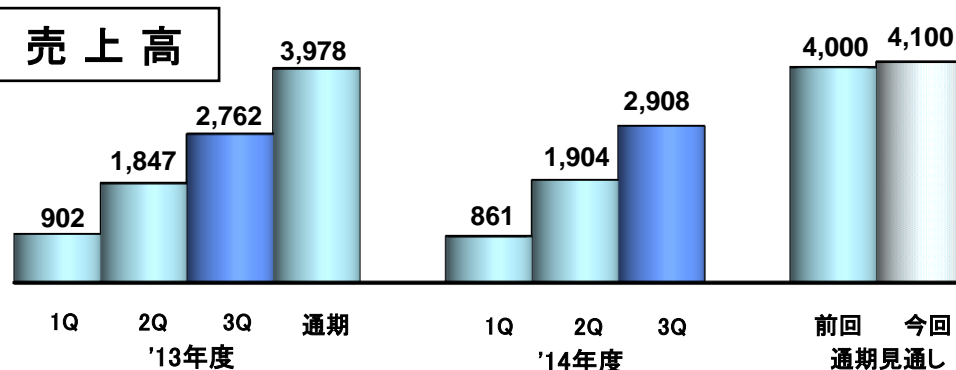
前回: 2014年11月5日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

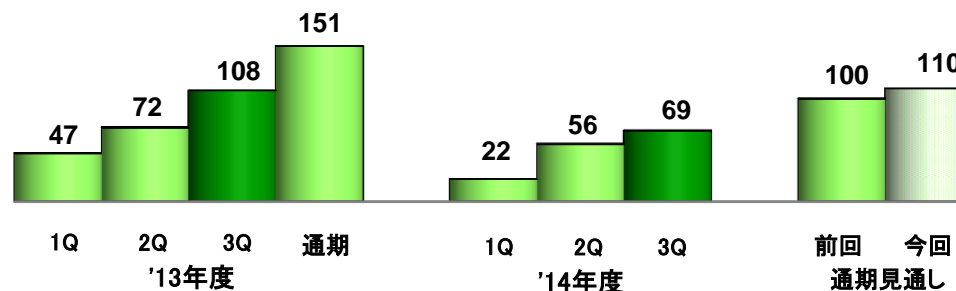
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

2013年10月にIHIメタルテック株の圧延機事業を分離した影響があったものの、車両過給機、運搬機械の増加により、前年同期比8.7%増の2,936億円となりました。

【売上高】

運搬機械の減収と上述の事業分離の影響があったものの、車両過給機、製紙機械が増収となり、前年同期比5.3%増の2,908億円となりました。

<車両過給機の販売台数> (万台)

	3Q	通期
'13年度	411	554
'14年度	439	591

【営業利益】

増収による増益効果はあったものの、販管費の増加等により前年同期比35.7%減の69億円となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

為替円安の影響等により、受注高は100億円の増加、売上高は100億円の増収、営業利益は10億円の増益としました。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高							
	'13年度 通期	'14年度 通期 (見通し)	'13年度			通期	'14年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
運搬機械	134	330	79	125	223	325	28	68	140	190
パーキング	417	400	66	157	249	397	65	167	271	420
熱・表面処理	247	300	50	115	163	262	45	112	171	280
車両過給機	1,509	1,680	362	739	1,113	1,507	407	832	1,233	1,680
圧縮機	226	270	51	113	166	235	44	105	174	260

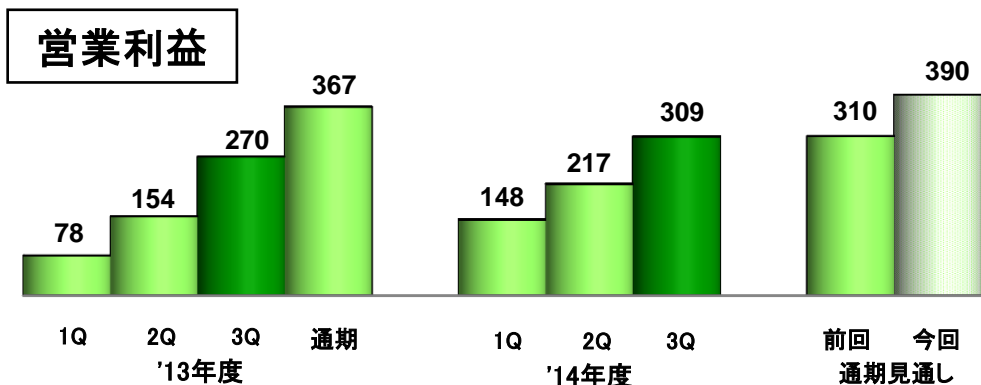
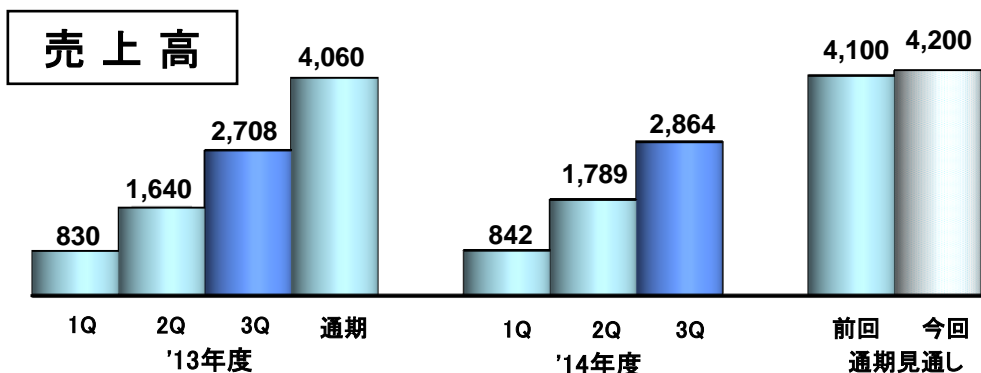
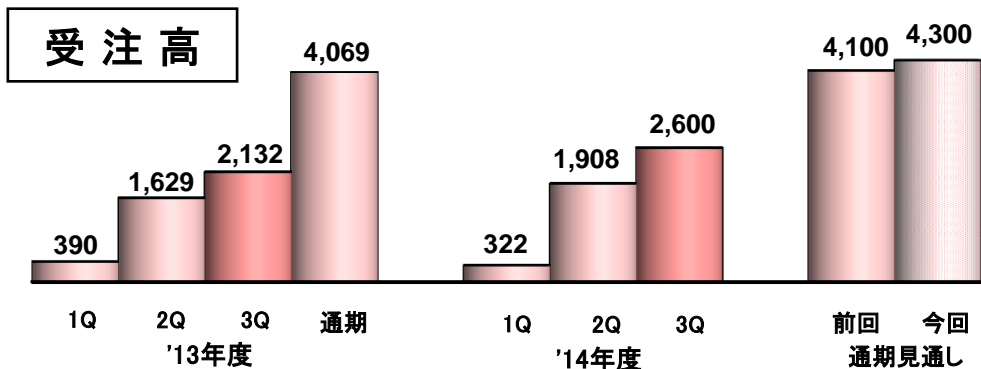
「車両過給機」の詳細は、P27の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2014年11月5日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用の増加により前年同期比22.0%増の2,600億円となりました。

【売上高】

前年同期に艦艇用ガスタービンの引渡しがあったことの反動により防衛機器システムが減収となったものの, 為替円安の影響や民間向け航空エンジンの引渡し台数増加等により, 前年同期比5.7%増の2,864億円となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

	3Q	通期
'13年度	857	1,199
'14年度	1,046	1,389

【営業利益】

為替円安の影響及び航空エンジンの増収と採算改善等により, 前年同期比14.4%増の309億円となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

為替円安の影響等により, 受注高は200億円の増加, 売上高は100億円の増収としました。

営業利益は, 為替円安の影響に加えて, 航空エンジンにおける採算改善及び研究開発費の発生遅れ等により, 80億円の増益としました。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高							
	'13年度	'14年度	'13年度			通期	'14年度			通期 (見通し)
	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
民間向け 航空エンジン	2,217	2,400	487	1,010	1,624	2,260	625	1,267	1,973	2,600

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P26の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料①>

- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し	
	'10	'11	'12	'13年度				'14年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
売上高	1,348	1,436	1,698	487	1,010	1,624	2,260	625	1,267	1,973	2,600	

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)											主要搭載機
	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14.3Q	
V2500	2,510	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,353	エアバス A319/320/321
GE90	387	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	1,984	ボーイング B777
CF34	668	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,078	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx								118	259	468	694	ボーイング B787/B747-8
合計	3,565	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,109	

(注)販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'10	'11	'12	'13年度				'14年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
日 本	302	331	339	85	169	259	353	90	184	275	377	
ア ジ ア	170	169	248	80	163	232	298	72	137	207	274	
中 国	42	143	181	56	115	173	234	63	128	175	241	
北 米	14	11	13	4	8	12	16	4	9	13	23	
欧 州	348	437	432	135	283	434	602	176	372	558	764	
そ の 他	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
合 計	879	1,094	1,216	362	739	1,113	1,507	407	832	1,233	1,680	

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し	
	'10	'11	'12	'13年度				'14年度				
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計		通期
賃貸収入	52	95	92	22	46	68	91	22	46	69	93	

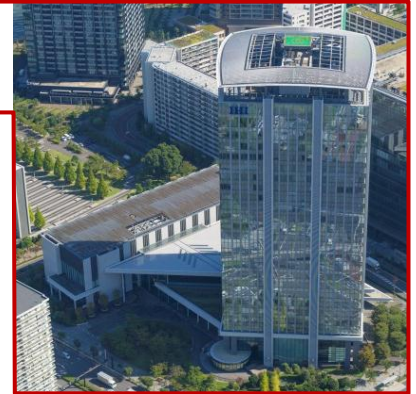
(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'14年度3Q (累計)	69	27	17	24

豊洲1～3丁目地区 開発マップ

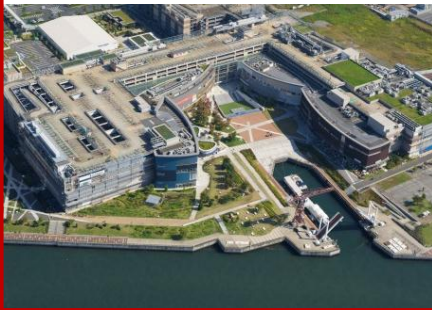
豊洲Hビル
 地上25F, 高さ:約125m, 延床面積:97,617㎡
 2006年2月竣工



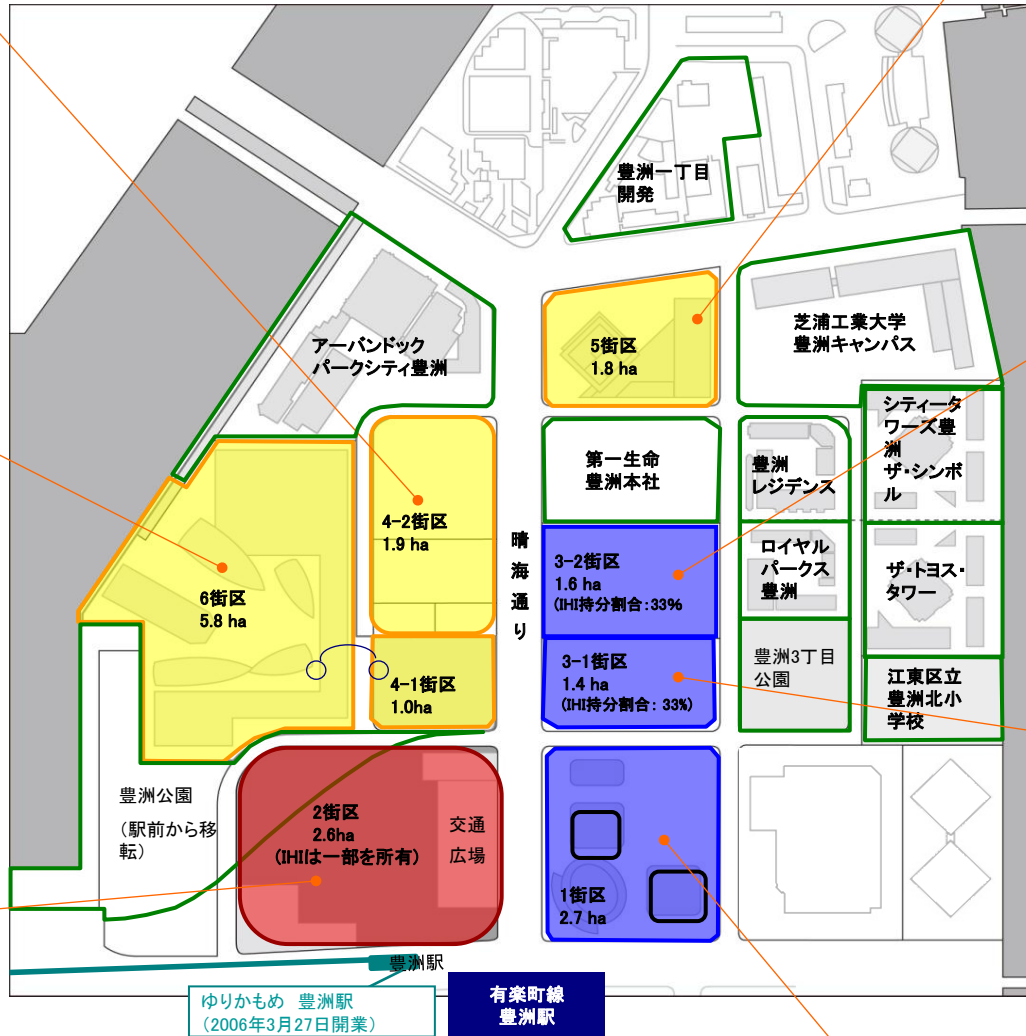
幼稚園, 保育園, カフェ, 結婚式場
 敷地面積:19,492㎡
 2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲
 (三井不動産)
 地上5F, 高さ約25m, 売り場面積:62,000㎡
 2006年10月開業



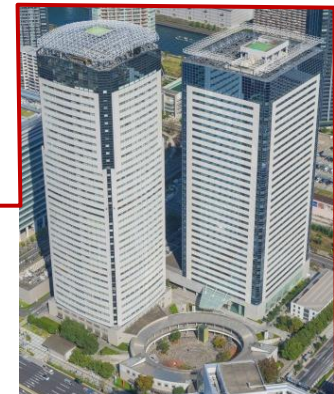
事務所棟, シビックセンター棟, 消防署棟
 (IHI, 三井不動産, 江東区, 東京都)
 開発中



豊洲フォレシア
 (IHI, 三菱地所(SPC))
 地上16F, 高さ:約75m, 延床面積:101,503㎡
 2014年7月竣工



豊洲フロント
 (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
 地上15F, 高さ:約75m, 延床面積:106,861㎡
 2010年8月竣工



豊洲センタービル
 地上37F, 高さ:約165m, 延床面積:100,069㎡
 1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
 地上33F, 高さ:約150m, 延床面積:105,448㎡
 2006年8月竣工

IHI所有地	約14ha
--------	-------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

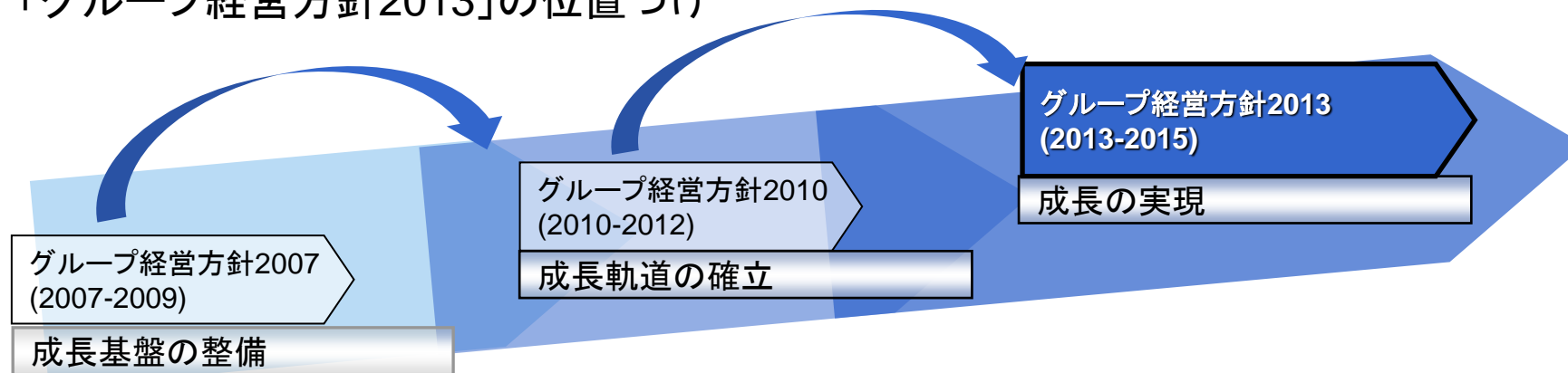
※1 都市再開発法で定める手法の一つ

＜参考資料②＞

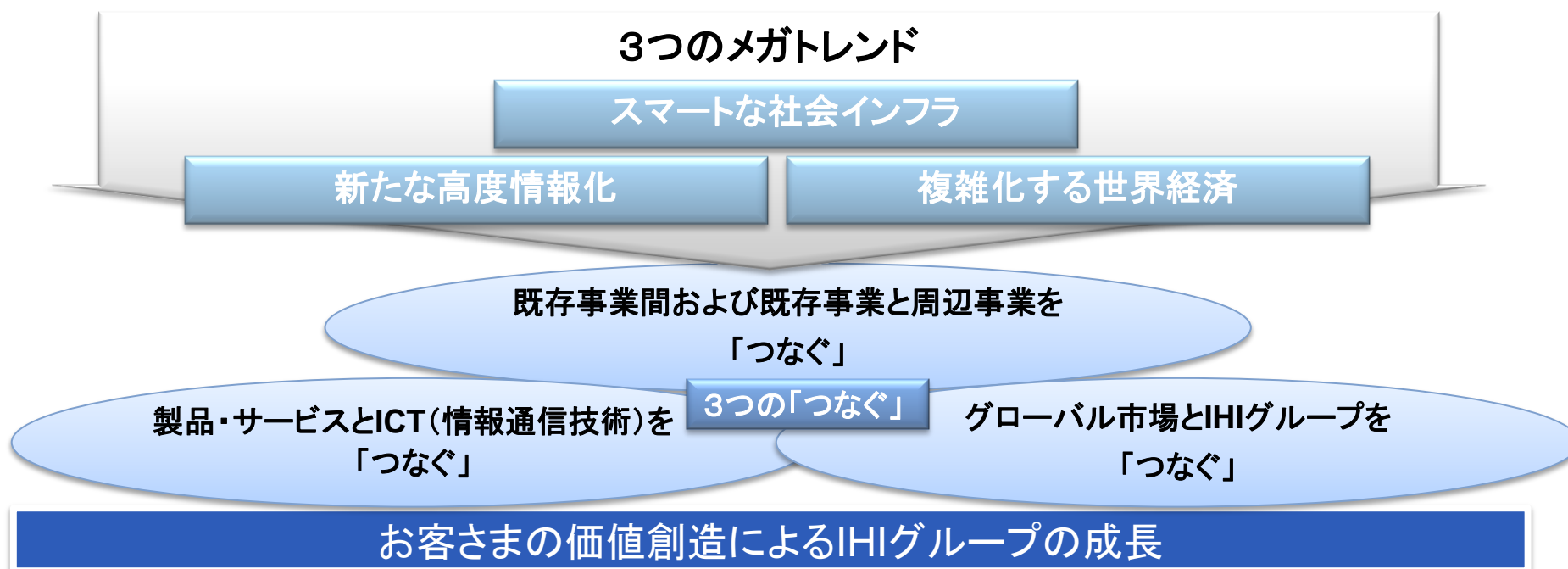
「グループ経営方針2013」進捗状況

「グループ経営方針2013」進捗状況

■ 「グループ経営方針2013」の位置づけ



■ 「グループ経営方針2013」における経営環境と成長への道筋



「グループ経営方針2013」進捗状況

■ 「グループ経営方針2013」 経営目標

経営目標	目標数値	目標達成時期	参考見通し
連結売上高	14,000億円	('15年度)	15,300億円
連結営業利益	700億円		900億円
投資総額	4,000億円	('13~15年度)	—
D/Eレシオ	1.2倍以下	('15年度末)	—
ROIC	6.5%		—

連結売上高, 連結営業利益の目標数値は, 為替レート的前提を80円/\$としたものです。
また, 連結売上高, 連結営業利益の参考見通しは, 為替レート的前提を100円/\$としたものです。

資源・エネルギー・環境

韓国の大宇建設から、アフリカ初の超々臨界圧石炭火力発電所となる、モロッコのサフィ発電所向けボイラ(出力693メガワット)を2基受注しました。当社グループは、ボイラ本体機器の供給等を担当し、2017年に出荷完了予定です。

本ボイラは、電力需要が急増しているモロッコで2件目の受注であり、蒸気を超高温・超高压化することで発電効率を高め、燃料の使用量と二酸化炭素の排出量を抑制することが可能です。当社グループは、引き続き、経済と社会の発展に伴って電力需要が急増するグローバル市場に向けて、高効率・高品質かつ環境性能にも優れた発電機器・システムを提供し、環境負荷の低減と電力の安定供給の両立に貢献していきます。



モロッコで稼働中のIHIが納めた大型石炭焼きボイラ

社会基盤・海洋

ベトナムのハノイ市において、当社グループの(株)IHIインフラシステムと三井住友建設(株)の共同企業体が建設したニヤタン橋(日越友好橋)が昨年12月に完成し、1月に開通式が盛大に執り行われました。

ニヤタン橋は、世界的にも珍しい形式である6径間連続鋼桁斜張橋(1,500m)の主橋部と取付橋部(1,580m)を合わせて総延長3,080mの規模を誇り、都心部の交通渋滞の解消を促進するなど、同国の発展のために不可欠な基幹交通網の要として位置付けられています。

当社グループは、インフラ需要が拡大する東南アジアを重点地域と位置付けており、IHI INFRASTRUCTURE ASIA CO.,LTD.において加工能力増強を進めるほか、ベトナムにおいては、橋梁事業を通じて培ったブランドを他の事業展開につなげる取組みを強化していきます。



ニヤタン橋

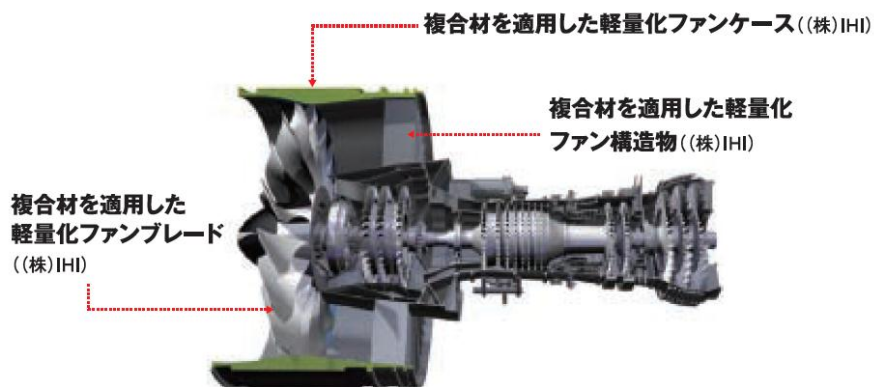
産業システム・汎用機械

ターボチャージャの生産累計台数5,000万台を達成しました。現在、当社グループは、世界6カ国で、軽自動車向けの小型からバス・トラック向けの大型まで、幅広いニーズに応じて多種多様なターボチャージャを生産しています。

ターボチャージャには、排ガスのクリーン化、低燃費、走行性の向上といった優れた点があり、ガソリンエンジンのダウンサイジングを目的とした搭載も増えています。近年では、各国の環境規制強化を受け、エコデバイスとして更に注目度が高まっており、今後も世界的な需要拡大が見込まれるなか、当社グループの開発・生産技術により、グローバルに生産・販売活動を展開していきます。



ターボチャージャ



「PW1100G-JM」の開発担当部位
提供：一般財団法人日本航空機エンジン協会(JAEC)

航空・宇宙・防衛

Airbus S.A.S. (エアバス社)の「A320neo」用エンジン「PW1100G-JM」の型式承認が、昨年12月に米国連邦航空局から交付され、民間航空エンジンとしての運用が正式に認められました。

当社グループは、(一財)日本航空機エンジン協会を主体とする日本側プログラムを通じてシェア約15%で参画し、ファンモジュール、低圧圧縮機の一部などの主要部品の開発・設計・製造及びエンジン整備を行ないます。

ファンケースや構造案内翼には、当社グループが独自に開発を行なった先進複合材技術が適用されており、エンジンの軽量化、燃費改善に大きく貢献しています。当社グループは今後も、民間航空エンジンの燃費、信頼性向上のために、様々な先端技術の開発を進めていき、航空機の環境負荷低減、安全性向上の一翼を担っていきます。

環境活動

当社グループは2013年4月に策定した「IHIグループ環境ビジョン2013」に基づき、あらゆる事業活動の局面で、地球環境保全と環境負荷の低減を推進しています。こうした取組みが評価され、当社は、昨年10月に、英国に本拠を置くNPO法人CDPより、「気候変動情報開示先進企業(CDLI)」および「気候変動パフォーマンス先進企業(CPLI)」に選定されました。

また、昨年12月には、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2014」に出展、「ものづくり技術」で社会の夢を実現する当社グループの環境活動を紹介し、前回は上回る5,000名以上のお客さまが当社グループのブースに来場されました。今後も、製品やサービスの提供をはじめとする事業活動全般を通して、環境保全に取り組んでいきます。



「エコプロダクツ2014」出展の様子



IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。